田中・田中野田親睦グランドゴルフに参加して

12 月 10 日（日）、天気も良く、暖かい日差しの中での開催でした。
田中町内の方々、和気町内会長、理事さんたちと一緒にラウンドさせていただきました。田中の方々は日頃練習されていらっしゃるのでしょう、皆さんお上手で、ひとホールを 2 打とか 3 打で回られ、そんな中私は初めてということもあり、4 打とか 5 打。ピンの所で、力加減がつかめず、入ったと思うと、反対側に出たり・・・なかなか難しいです。初めてお会いする方々なのに、皆さん優しく「上手！」とか「惜しい。もうちょっと。」などと声掛けしてくださり、ほんとに楽しくプレーすることができました。そして 6 ホール目（?）なんと、ホールインワン！！自分が一番驚きました。何が起こったのか、一瞬わからなかったくらい。でも、嬉しい。思わず、「ヤッター！」とガッツポーズ。
今年 4 月から 1 組の理事になり、夏祭り、秋祭り（台風に見舞われましたが）、そして今年最後のイベントです。
これから年末・年始の慌しくなる前に、このような楽しいひと時を過ごすことができ、普段ほとんど触れ合うこともない方たちと一緒に、ほっこりした気持ちになれた日でした。

1 組理事　　田中　暁美

雑 記 帳

名横綱双葉山が目指した「木鶏」

元横綱日馬富士による貴ノ岩への暴行事件で大相撲が大混乱の模様だ。日馬富士が引退をして決着するのかと思ったが、そんなことでは収まりそうもない。
直接の関係者でない者が、勝手な発言をし、ワイドショーがさらに火をつけにぎやかになっている。それぞれが憶測で好き放題を言うのでは収まりようがなかろう。
極めつけは、不気味な沈黙を守り続ける貴乃花親方が、八角理事長および相撲協会への根深い不信感から、「第二相撲協会」を設立するのでは、というクーデターまがいの話だ。
これでは、まるでプロレスだ。国技といわれ、日本の伝統文化である大相撲もこれで終わりなのかと思ってしまう。
69 連勝の記録を持つ名横綱双葉山が、連勝がとぎれたとき、「未だ木鶏たりえず」と語ったエピソードを思い出す。
老子の最も代表的な弟子である荘子と前後する人と思われる「列子」が語ったのが「木鶏」という話だ。紀悄子という闘鶏を育てる名人が、王からの問いに答える形式で最強の鶏について説明する形式で語られたものだ。
かいつまんでいえば、真の強者とは、空威張りしたり、いきり立ったり、己の強さを誇示するのではない。「木鶏」の如く鎮座しているだけで衆人に自分の徳を知らしめ、闘争心を失わせることのできる者であるという話だ。
双葉山は、大横綱になる前、ある人から「君もまだまだ」と言われ「それはどういうことか」と慇懃に迫ったという。この時、「木鶏」の話を聞かされ深く感動し、以後「木鶏」足らんことを目指し修行にいそしみ、大横綱としての高みを極めたという。
実は、横綱白鵬も、自分の連勝が 63 でとまった時に支度部屋で「いまだ木鶏たりえず、だな」と語ったと言う。白鵬が偉大な横綱双葉山の「木鶏」の話を知っていたのはうれしい限りだが、張り差しやら、負けて物言いなど、横綱らしからぬ振る舞いに眉をしかめるフアンも多い。
大相撲が大混乱の今、横綱白鵬には、双葉山が「木鶏」足らんことを目指し修行した本当の意味をもう一度深くかみしめ、真の大横綱を目指して黙々と相撲道修行に励んでくれることを願わずにはおれない。　　（独り言）